

2004年を振り返る

歴史が刻まれた夏

関東第3位で出場権を手に入れ、3連覇へ大阪へ乗り込んだ駒大。1回戦、2回戦を難なく乗り越えるが準決勝では、関カレ準決勝で敗戦を喫している明大との対戦となった。序盤、原の2ゴールでリードすると守っては鈴木祐を中心としたDF陣が明大をシャットアウト。決勝へ駒を進めた。迎えた桃学大との決勝戦。累積警告により鈴木祐が出場停止。この主将不在が開始早々の失点を招く。しかし直後、中嶋のゴールで逆転。その後失点を喫し同点で前半を折り返す。後半、ハーフタイム中にしつかりとミーティングをした結果が現れる。子53分、60分と点を重ね、最後はエース赤嶺が駄目押し点を決め、史上初3連覇を成し遂げた。

課題克服できず…

夏の大臣杯優勝をきっかけにリーグ戦の首位浮上を狙っていた駒大は、大臣杯で大きく成長した鈴木亮、小林竜らを積極的に起用する。結果8、10節を失点1の3連勝で勝ち進む。

一方、天皇杯の過密日程の問題により9月に行われた天皇杯では、これまで1点差に泣き中京大相手にまさかの1回戦敗退となってしまった。気持ち切り替えたい駒大だが、その後の中大戦では辛うじて引き分けるなど、天皇杯の敗戦を払拭できないでいた。そんな中、2位流経大との1戦。前半、赤嶺のゴールで先制する。その後は効果的なプレスで流経大を鎮圧し試合も終盤へ。だがここでも脆さが出てしまい立て続けに2失点。まさかの敗戦で3連覇に黄色信号が点ってしまった。

後がない駒大は首位筑波大を倒すことが絶対条件となった。駒大は赤嶺、原、巻の3トップで挑むが、序盤筑波大に先制される。直後鈴木亮のゴールで同点に追いつくが、後半65分鈴木達に決められ、その後追いつくことなく試合終了。またしても1点差の接戦に勝つことができなく、勝負弱さを露呈。この敗戦で3連覇の夢が完全に消滅してしまった。

3年ぶりの快挙!!

最大の目標に掲げていた天皇杯は大学生相手に1回戦負け、リーグ戦優勝も宿敵筑波大に奪われ、絶望の淵に立たされていた駒大に、主将の鈴木祐の怪我という悲劇が襲う。全治3ヶ月。インカレ出場は絶望と思われた。だがこの鈴木祐の怪我がインカレ優勝という栄冠をもたらす事に。

インカレ予選リーグを3戦全勝で勝ち進んだ駒大は決勝Tに入り1回戦阪南大を苦しみながら制すと、2回戦は夏の大臣杯の再戦となった桃学大との対戦。ここではインカレに入り好調の宮崎のゴールで沈めると準決勝では筑波大との対戦となった。

「決勝に行けば祐輔の復帰の可能性もある」と太が話すように試合に対するモチベーションの差は歴然だった。前半、中後の2得点でリードすると、筑波大の猛攻を凌ぎ見事2年連続の決勝の地へ駒を進めることになった。

決勝戦。キャプテンの復帰を誰よりも心待ちにしていたのは高校時代からのチームメイト小林亮だった。苦しい時も悲しい時も共に過ごしてきた仲間と大学生活最後の試合を戦いたい。その一心だった。小林亮は中後と共に監督に鈴木祐のスタメン起用を直訴すると、指揮官はそれに応え起用。100%の状態ではない選手の出用は監督の英断だった。

立命大との決勝戦は3点差というスコアはついたものの互いの長所が存分に現れた好ゲームとなった。

26分の中嶋のゴールを皮切りに立て続けに4点を連取。勝負あったかと思えたが後半、立命大も必死に反撃し得点を奪う。その後両者の攻防は続くが互いに1点ずつ奪い、終了のホイッスル。歓喜の声が国立に響く。

最大の目標にしていた打倒J、リーグ戦3連覇はならなかったにしろ、主将の怪我でチームが一つになり、準決勝では筑波大にリベンジを果たし手にしたインカレの栄冠は大きい。しかし駒大の最大の目標は打倒J&大学3冠だ。それらが達成されるまで駒大のあくなき挑戦は続く。(野澤俊介)

インカレ 歓喜の国立に舞う



決勝戦

○5-2対立命大

最後の大会にける4年生の思いはすごかった。今年の4年生の仲の良さは誰もが認めるもので、登録メンバーに入っていない4年生の選手たちもオフにもかかわらず練習を手伝い、万全の状態で選手たちが決勝戦に出場できるようバックアップするなど、影の功労者がいたことを忘れることはできない。それに刺激を受けた2、3年生がピッチで活躍。全員で掴み取ったインカレ優勝杯となった。

後期リーグ

中 大戦、残り20分で3点差という絶体絶命の状況をなんとか引き分けに追いつき優勝の可能性を残すまではよかった。しかし残り3戦、全て勝ちにしようとした気持ちが流経大戦、最悪の結果を招いてしまい、その後首位の筑波大に破れ、3連覇の夢は潰えた。



遠かった3連覇



第11節 ▲3-3対中大

第12節 ●1-2対流経大

天皇杯

打倒Jを掲げる駒大にとって一番大切な大会である天皇杯。昨期の初戦敗退から「今年こそは」と意気込んだが、2年連続の初戦敗退。試合後、同じ大学生相手の敗戦に選手たちは落胆の色を隠すことができず、いつまでも試合後のピッチを呆然と眺めていた。



2年連続J挑戦ならず 1回戦 ●1-2対中京大

入団が決まった卒業生 (1.27日現在)

- 中後雅喜→鹿島アントラーズ(J1)
- 小林 亮→柏レイソル(J1)
- 太 洋一→ロッソ熊本(社会人)
- 関 光博→ロッソ熊本(社会人)
- 大瀬良直人→ロッソ熊本(社会人)
- 桐原聡太郎→ソニー仙台(JFL)